

# 市長定例記者会見資料



令和元年 8 月 26 日	
所 属	政策推進課
所属長	堀井 美雲
電 話	06-6489-6124

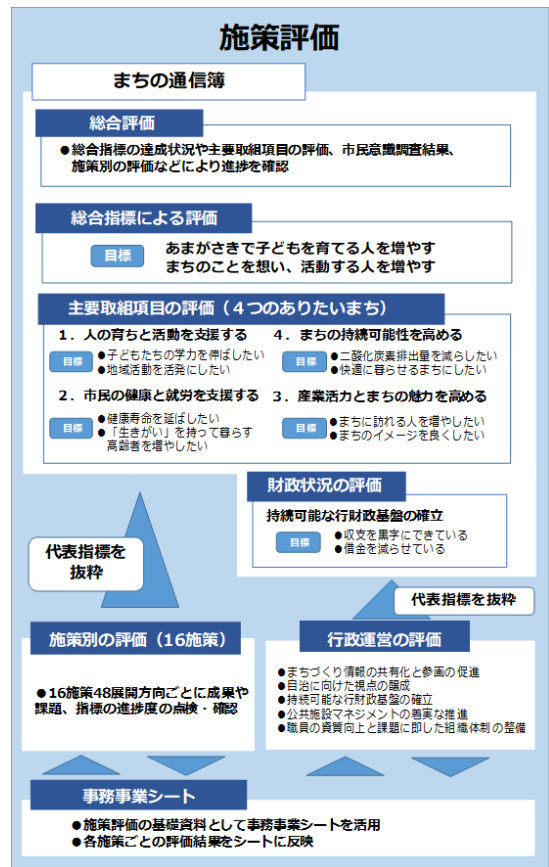
ここを読めば、まちづくりの評価が分かる。「まちの通信簿」がまとまりました  
～令和元年度 施策評価結果（平成30年度決算）を公表します～

## 1 施策評価とは

尼崎市では、平成25年度に策定した総合計画（まちづくり構想）において、目指すべき4つの「ありたいまち」を示しています。

また、その実現に向けては、本市の事務事業を16施策（学校教育・高齢者支援等）に分類し、取組の方向性を示すとともに、毎年度、取組状況を振り返る「施策評価」を実施し、その結果を政策立案など次年度の予算編成につなげていくといったPDCAサイクルを実施してきました。

後期まちづくり計画期間最初の評価となる、令和元年度の施策評価においては、市民の皆さんに、市政の状況を分かりやすくお伝えし、市政に関心を持っていただけるよう、これまでの各施策の評価に加え、「4つのありたいまち」に向けた進捗評価や、まちづくり全体に対する総合評価など、“ここを読めば本市のまちづくりの進捗状況が分かる”といったものを「まちの通信簿」としてまとめ、公表していきます。



## 2 「まちの通信簿」

「まちの通信簿」においては、まちづくりの総合目標と、4つのありたいまちごとの目標に対し、それぞれ指標を定め、その推移をもとに、まちづくりの進捗を総合的に評価しています。

### (1) 総合評価・別冊P22

平成30年中の本市人口の社会動態は全地区において転入超過に転じ、50年ぶりに3年連続の社会増となりました。また、市民意識調査における「本市のイメージが良くなった」と感じる人の割合が前年度に比べ15ポイント以上と大幅に上昇し、「本市を訪れた人（観光客入込客数）」が約15万人増加するなど、本市を取り巻く状況には変化の兆しがみられます。

これらは、「教育」「環境」「治安やマナー」といった本市の課題に対する長年にわたる総合的な取組に加え、尼崎城の公開に向けた、さまざまな取組や民間企業主催のランキングにおいて「本当に住みやすい街」に選ばれたことなどによる効果があったものと考えられます。

(2) 総合指標によるまちづくりの評価・・・別冊P9～11

- ① 目標1：あまがさきで子どもを育てる人を増やす
  - ・ ファミリー世帯の転出超過数は3年連続で減少して、257世帯となりました。
  - ・ 人口の社会動態についても、3年連続の転入超過で1,700人の増となり、20歳代の転入者が大半を占めていることから、20歳代の単身世帯や夫婦世帯から選ばれるまちという本市の特長が継続しています。
- ② 目標2：まちのことを思い、活動する人を増やす
  - ・ 市民意識調査において、尼崎を推奨する意欲（地域推奨意欲）が、市民、市外の方ともに前年度と比較して改善し、特に尼崎の魅力を勧めたいと感じていない市民の割合が大幅に減少しています。
  - ・ まちの活動に感謝する意欲（地域活動感謝意欲）は、高い数値を維持しています。

(3) 4つの「ありたいまち」に向けた主要取組項目ごとの評価・・・別冊P12～20

- ① 人の育ちと活動を支援する  
(目標1：子どもたちの学力を伸ばしたい 目標2：地域活動を活発にしたい)  
**トピック** 子どもの学力は、全国平均まであと一歩！（別冊P12）
- ② 市民の健康と就労を支援する  
(目標1：健康寿命を延ばしたい 目標2：「生きがい」を持って暮らす高齢者を増やしたい)  
**トピック** 健康寿命と平均寿命の差は縮小！（別冊P15）
- ③ 産業活力とまちの魅力を高める  
(目標1：まちに訪れる人を増やしたい 目標2：まちのイメージを良くしたい)  
**トピック** 観光客入込客数は市制100周年の年を超える！  
「まちのイメージがよくなった」と感じる市民の割合が大幅に改善！（別冊P17）
- ④ まちの持続可能性を高める  
(目標1：二酸化炭素排出量を減らしたい 目標2：快適に暮らせるまちにしたい)  
**トピック** 市内における二酸化炭素排出量は減少傾向。「民生家庭・業務部門」の更なる削減が課題（別冊P19）

3 施策評価結果の活用

施策評価結果は、市議会に決算審査の附属資料としてお示しし、施策評価を踏まえた意見（提言）をいただくとともに、令和2年度の予算編成につなげていきます。

